

2018 年度事業活動報告

2019 年度事業計画



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

URL: www.kaigaikurumaisu.org

2018 年度事業報告

1. 車椅子収集事業

子ども達の体に合わなくなり使われなくなった車椅子は、首都圏の肢体不自由児の特別支援学校や療育施設などの PTA の方々や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、**29 の学校・療育センター**から 573 台の提供を受けました。また、当会のホームページを見た個人からの持ち込みも例年以上にありました。それらを加えると収集できた車椅子は 613 台です。当初、心配された特別支援学校からの提供も順調でしたので発送計画をスムーズに立てることができました。

都県別年度別の学校数と収集実績は次の通りです。

首都圏肢体不自由児特別支援学校からの収集台数

都・県 (学校数)	2015 年 (学校数)	2016 年 (学校数)	2017 年 (学校数)	2018 年 (学校数)
東京 (22)	214 台	(11)	229 台	(12)
神奈川 (15)	114 台	(6)	170 台	(9)
埼玉 (9)	147 台	(5)	163 台	(7)
千葉 (6)	26 台	(1)	132 台	(5)
合計 (52)	501 台	(23)	694 台	(33)
			530 台	(25)
			569 台	(29)

2018 年度も首都圏特別支援学校の半数以上の学校から車椅子を提供していただきました。東京都は学校数と提供台数の双方で数字が昨年より大きく増えました。一方の神奈川県は、双方の数字が減少しましたが、埼玉と千葉は堅調な台数の収集ができました。

今年は、初めて長野県の諏訪擁護学校から 4 台の車椅子の提供がありました。当会が希望している収集エリアからは外れていますが、貴重な車椅子の提供なので収集に出かけました。(上記の表にはその数字は含まれていません)

様々な人が当会のホームページにアクセスをしてくれて車椅子の提供をしてくれるようになってきています。その中には、個人での持ち込みもあり、それをきっかけに例会を見学する家族も見られるようになりました。

2017 年度は全体としての車椅子の集まりが減少傾向でしたが、2018 年度は収集が順調に進みました。多くの国の子どもたちが車椅子を待っています。今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。

(提供方法は当会のホームページをご覧ください <http://kaigaikurumaisu.org/>)

2. 車椅子の整備事業

車椅子の整備は、多くのボランティアの参加を得て毎月第3日曜日に開催する車椅子整備例会で行われています。例会の参加者は、大学生や高校生、当会を支援してくれている企業の社員、そして在日のベトナム、エチオピア、ネパールの人たちです。その総数は、昨年より18%増えて毎月平均53名、年間延べ637名となりました。そうした人たちのお蔭で、年間613台の車椅子の洗浄、修理整備、梱包そして船積みすることができました。



(左) 相模女子大チームのメンバーは作業開始前に打ち合わせを綿密に行います。

(右) 相模女子大チームは作業終了後に全員での記念撮影です



毎月の例会に10人以上のボランティアが参加してくれるベトナムチームです。彼らの思いは、「1台でも多く、ベトナムの子どもに車椅子を送りたい」です。しかし、他の国への贈呈することが決まっている車椅子でも整備作業を一生懸命にやり遂げます。

○整備作業例会の様子



エチオピア大使が例会の見学に来られました。ベテランボランティアのアベベさんの通訳で大使に活動内容を説明します。



(左) 新しく参加してくれたエクイニクスジャパン株式会社の皆さんには、おそろいのティーシャツを着て活動です。

(右) 福生市に27年在住している20世紀で最も偉大な画家と言われるピカソの孫のピカソ・マリア・クリスティーナさんも参加してくれるようになりました。



家族で参加のネパール人



昭島中央ロータリークラブ会員の皆さん

○整備作業例会の様子



多摩工業高校の先生と生徒の皆さん



NPO 法人 Support Asia For Children Japan の皆さん



福生高校の生徒の皆さん



作業を完了し、全員での記念撮影

3. 車椅子発送事業



車椅子は丁寧に梱包されて、コンテナに積み込んで船便で各国へ発送しています。

2018 年度寄贈実績 (* 外務省 NGO 連携無償資金協力支援事業)

エチオピア*	2018年 5月	90台	チェシャ障害者支援財団
ネパール	2018年 7月	90台	ネパール CBRS ポカラ (JICS NGO 支援事業)
タイ	2018年 9月	86台	タイ身体障害者協会
ラオス	2018年 11月	90台	ラオス障害児支援協会 (今井記念財団支援事業)
インド	2018年 12月	90台	Jan Vicas Samiti (日本国際協力財団支援事業)
フィリピン	2019年 2月	77台	フィリピンJV R財団
フィリピン	2019年 3月	90台	フィリピンJV R財団

合計 : 613 台

2004 年に活動を始めてから累計で 23 力国へ 7,529 台 (2019 年 3 月現在) となりました。

○贈呈式の様子



エチオピアでの贈呈式

ネパールでの贈呈式

○贈呈式の様子



タイでの贈呈式



ラオスでの贈呈式



インドでの贈呈式

当会は車椅子が現地に届いた後、受入団体と贈呈式を行い、それぞれの子どもに適合する車椅子を貸与し、子ども用車椅子の使い方や修理の方法などを指導しています。その後各家庭を訪問し、活用状況の確認を行うことでプロジェクトの検証と評価を実施しています。

贈呈式や現地訪問の様子など詳しくは、当会ホームページや活動レポートを参照ください。

4. 活動広報事業

私たちの海外での活動に加えて、現地の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を年4回発行しています。

さらにホームページで日本での活動をはじめ海外での事業の内容を、タイムリーに広報するよう努めていますので、隨時ご参照ください。 <http://www.kaigaikurumaisu.org> 当会事業紹介を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しました。ホームページにも掲載しています。

5. 海外の子どもたちからの絵画

当会は2018年で活動15年目を迎えました。私たちは、日本の皆さんから預かった車椅子を海外の子ども達へ送るお手伝いをしており、これまでに23カ国約7,000名以上の子ども達に届けました。

このたび、当会が送った車椅子を受け取った海外のたくさんの国の子どもたちが日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、絵を描いて送ってきました。言葉の壁を乗り越えて喜びや感謝の気持ちがよく伝わってきます。ホームページですべての絵を見ることができます。是非ともご覧ください。

(海外子どもギャラリー <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)

皆さんにしかできない、車椅子を海外の恵まれない子ども達に贈るというすばらしい国際支援と交流活動を、私たちの会がお手伝いできることを誇りに思います。是非これからも皆さんの車椅子を提供してください。

6. 当会の財務状況

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集し、整備をして、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1万円です。それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金と民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

別表の収支報告書の通り、2018年度は個人・企業からの寄付金や公的助成金をいたただくことができ、613台の寄贈の費用を賄うことが出来ました。しかしながら、昨今は日本国内だけでなく、海外での物流コストが高騰しているため厳しい環境になっています。当会がこれからも活動を維持・継続していくためには、更なる安定した資金の確保が課題です。

どうか引き続きご支援ご協力をくださいますよう、心からお願い申し上げます。

2018年度収支実績と2019年度収支計画(4月1日～3月31日)

(単位：円)

	2017年度 収支実績	2018年度 収支実績	2019年度 収支計画
前年度繰越金	8,384,895	10,273,304	5,073,986
収入の部			
会費収入	341,000	388,000	380,000
公的助成金収入	8,264,060	0	0
民間助成金収入	5,151,136	6,897,336	5,000,000
寄付金収入	2,636,512	2,355,470	2,500,000
利息収入	41	42	40
雑収入	23,895	0	0
当年収入額	16,416,644	9,640,848	7,880,040
支出の部			
1. 事業費			
車椅子収集事業費	903,279	1,754,641	1,200,000
車椅子整備事業費	4,593,704	1,238,130	1,100,000
車椅子発送事業費	8,157,259	10,642,129	4,500,000
活動広報事業費	259,247	731,781	600,000
事業費合計	13,913,489	14,366,681	7,400,000
2. 管理費			
事務消耗品費	15,160	4,255	10,000
消耗品費	58,658	31,615	40,000
水道光熱費	0	0	0
旅費交通費	23,896	33,032	30,000
支払手数料	23,938	21,962	20,000
交際費	53,545	62,222	70,000
支払保険料	108,136	108,136	108,136
通信費	120,960	19,309	25,000
複写費	51,748	83,068	60,000
会議費	141,666	106,835	100,000
諸会費	0	2,000	2,000
雑費	17,039	1,051	20,000
管理費合計	614,746	473,485	485,136
総支出額	14,528,235	14,840,166	7,885,136
次期繰越金	10,273,304	5,073,986	5,068,890

2019年度事業活動計画書（案）

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校 PTA の定期的かつ継続的な収集協力を得て、必要数を確保する。近年の収集結果の減少傾向を鑑み目標台数は 450 台以上とする。

また、これまでの実績に加えて、HP での啓発や保護者間の情報網の広がりにより、2018 年度では約 15% が個人からの提供となっている。これは、保護者の間に会の活動への理解と、海外の障害を持つ子ども達への支援への意思の表れであり、今後も個人からの提供増加への努力と継続していく。

2. 車椅子整備事業

- ・毎月の例会において確実な整備と台数の確保を図る。
- ・HP および会員やボランティアのネットワークを通して、より広い範囲で例会活動への理解者と参加者を増やし、プロジェクトを不安なく完了するための安定した作業参加者の確保に努める。
- ・収集した車いすを整備、修理して寄贈することが会の基本活動であるが、当会が取集した車いすを未整備のままで送付し、受け入れ国側で整備作業をして子ども達に配布する寄贈形態も一つの目標としている。現地の人たちが、自分の手で子ども達を支援する形態である。より多くの車椅子を海外の子どもたちに送る手段の一つとして、技術的な側面を整えながら少しづつでも現地整備への実現を目指していく。

3. 車椅子発送事業

タイ	2019 年 6 月	90 台	タイ肢体不自由者協会
マレーシア	2019 年 7 月	180 台	東方政策元日本留学生同窓会
ベトナム	2019 年 10 月	90 台	ベトナム赤十字
カンボジア	2020 年 1 月	90 台	カンボジア障害者支援センター
パラグアイ	2020 年 3 月	90 台	パラグアイ障害者人権保護庁

合計 540 台

4. 活動広報事業

- ・「活動レポート」の発行(年間 4 回)：当会の海外での活動状況を、写真を中心にして報告
- ・当会ホームページのタイムリーな記事の掲載で内容の充実

5. 活動資金確保活動

- ・広報活動の拡充による会員数の増加と全会員からの確実な会費の納入を図る
- ・民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す

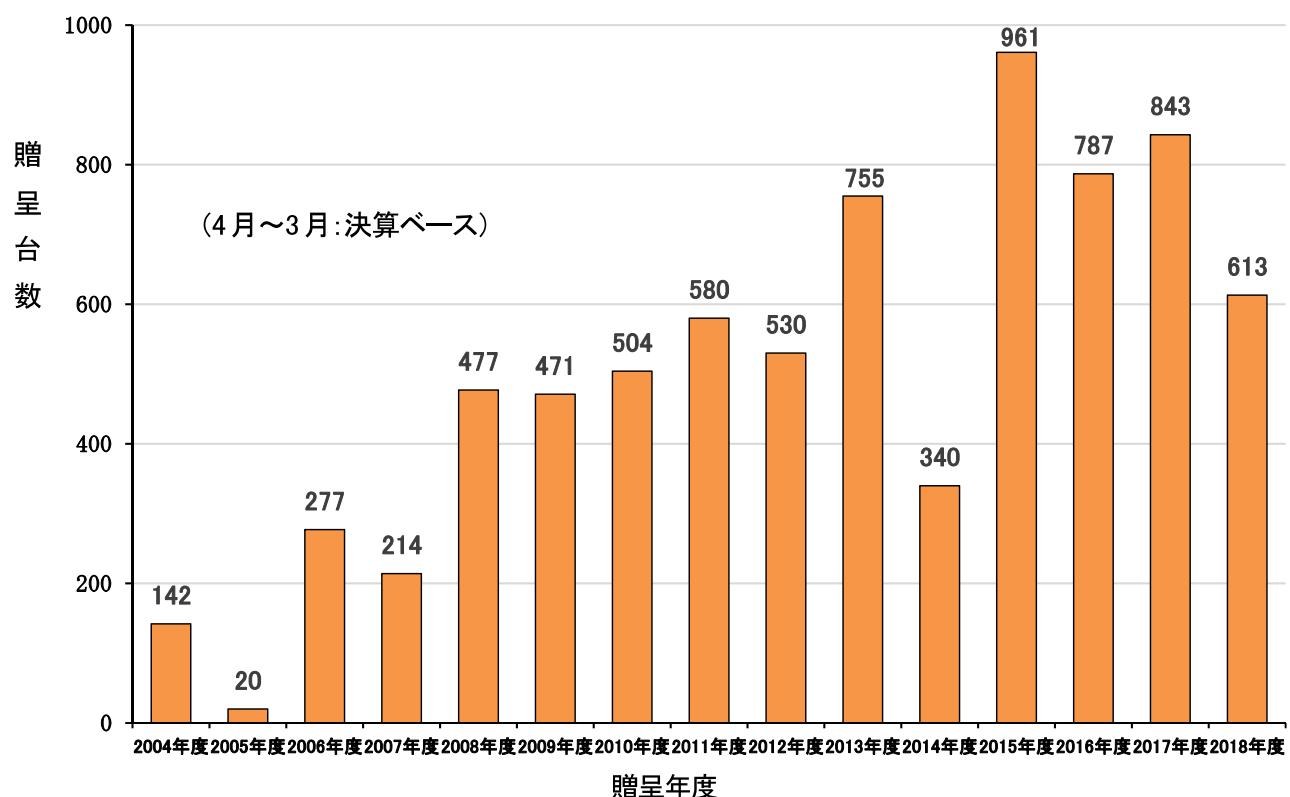
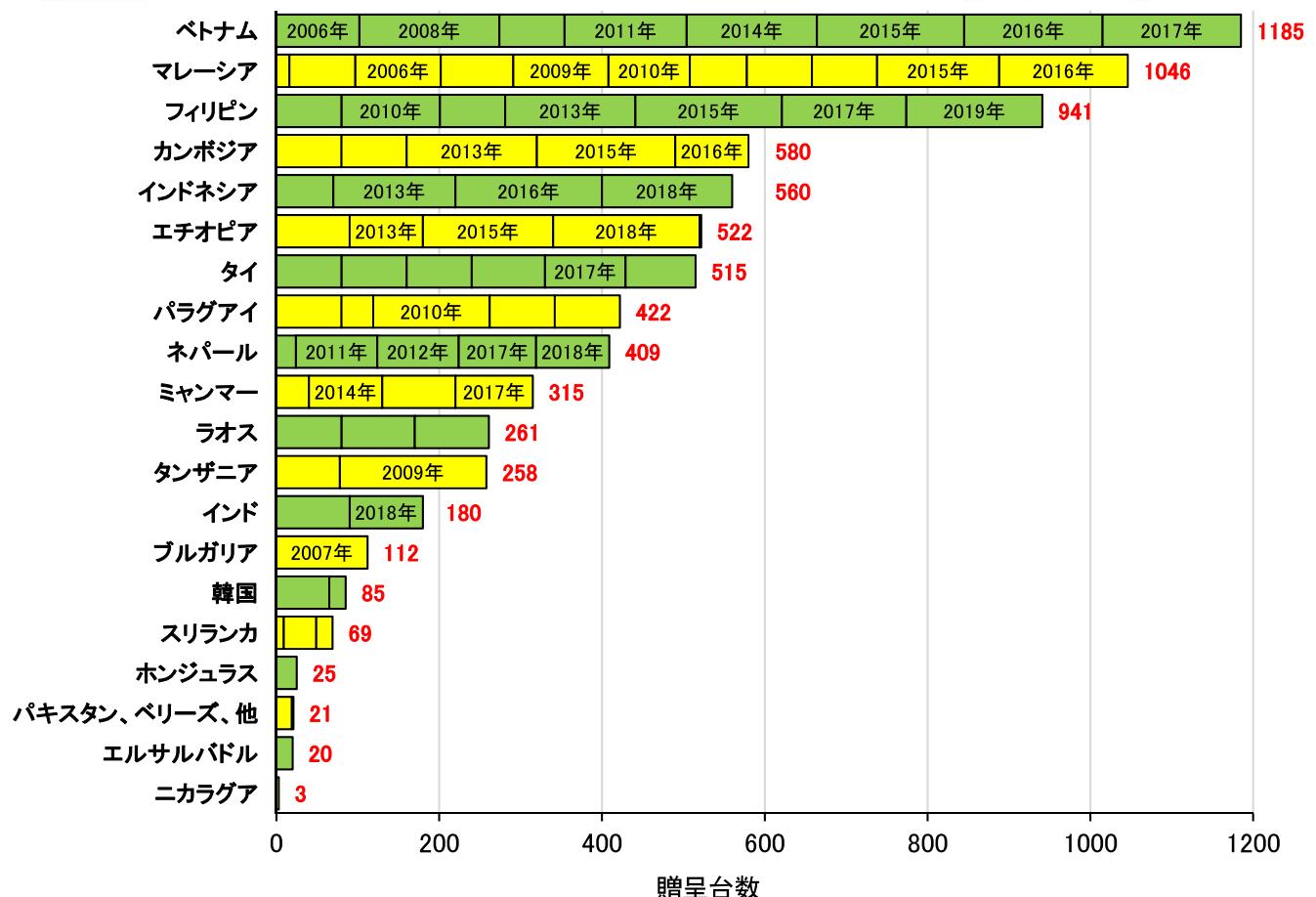
6. 海外の子どもたちからの絵画活用事業

- ・子どもたちからの絵画展覧会の開催企画
- ・子どもたちからの絵画集の発行企画



NPO法人
海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 23ヶ国 7,529台 (2019年3月現在)

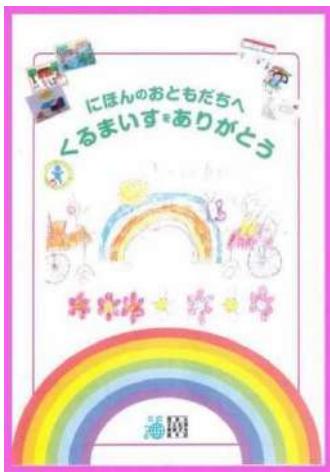


車椅子を受け取った海外の子どもたちからの絵

(すべての絵 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)

海外の子どもから日本の皆さんへたくさんの感謝の絵が届きました。私たちの会は、日本の皆さんから車椅子を預かり、整備をして、船に乗せ、海外のお友達に送るお手伝いをしています。これまでに23カ国約7,000名以上の子ども達に届けました。

日本の皆さんが大切に使った車椅子を、海外の子どもに届けるときには、皆さんの動ける喜びを分けてあげたいという暖かい思いを伝えています。人生ではじめて車椅子に乗ると興奮し、嬉しさのあまり涙を流して喜んでくれます。日本の立派な車椅子を見るのも初めてで、お母さんは家族の宝物だ、大切に使うと約束してくれます。



海外のお友達は、車椅子がとても高価なために手に入れることができず不自由な生活を送っています。車椅子で屋外に出て日光浴や新鮮な空気を吸うと、気持ちがよくなり元気になります。友達と村の祭りや学校へも行けるようになり、毎日がとても楽しくなります。外出すると地域の人達が親切してくれ、友達が車椅子を押してくれます。そして、家族や地域の人々に大きな影響を与え、障害に対する理解が深まるのです。

このたび、海外のたくさんの国のお友達が、日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、絵を描いて送ってきました。海外の友達が心を込めて描いた絵から、言葉の壁を乗り越えて子どもたちの喜びや感謝の気持ちがよく伝わってきます。日本と海外の子ども達との心の結びつきが生まれています。

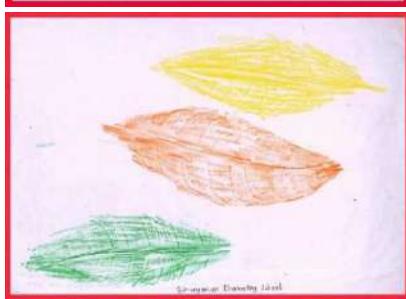
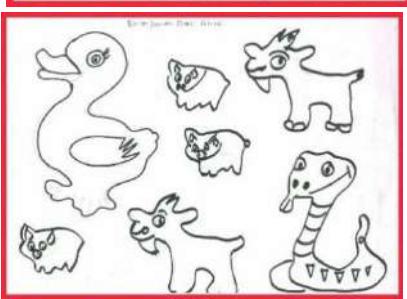
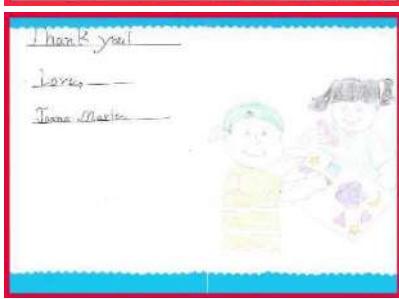
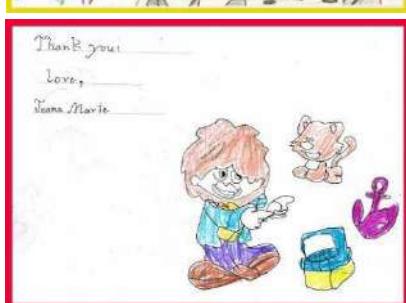
皆さんが他の人にはできないすばらしい国際支援と交流活動をしていることを大変うれしく思うとともに、私たちの会がお手伝いをできることを誇りに思います。海外には車椅子が手に入らず不自由な生活で困っているお友達がまだたくさんいて、車椅子を待っています。是非これからも皆さんの車椅子を提供してください。

以下は送られた絵の一部です。すべての絵は当会のホームページから見ることができます。

(すべての絵 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>)



車椅子を受け取った海外の子どもたちからの絵



車椅子を受け取った海外の子どもたちからの絵



すべての絵はこちらからご覧ください。 <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/>

N P O 法 人

海外に子ども用車椅子を送る会



活動
レポート
2018年4月 第18号

2018年2月27日
国立リハビリ病院
(National Rehabilitation Hospital NRH)



ミャンマー

ミャンマー2か所の病院で車椅子引き渡し

2018年2月 95台

295台の車椅子をミャンマー政府の保健省の傘下の3か所の病院に寄贈した。
ミャンマーには今回で4回目の寄贈であり、合計台数は315台となった。

保健省Dr. Nu Nu Kyiは「大事なプロジェクトだから」と両病院での式に出席し、過去4回の寄贈数を挙げて感謝の言葉を述べるとともに「特に地方では車椅子を手に入れることが不可能」と引き続いでの寄贈への強い要望があった。

小田理事のスピーチに続いて、相模女子大チームの学生が「日本での車椅子活動」の紹介のプレゼンテーションと日本の二人の母親からの「ミャンマーの皆様へ」の手紙をミャンマー語の通訳を通じて紹介した。



「車椅子を家族の一人と思って大切に活用してほしい」と述べる小田理事



今回車椅子を受け取った子ども達に加えて、前回2016年に車椅子を受け取った7組の親子が病院を訪問し、「動物園に連れて行けた」「近所の子と外で遊ぶことができ、友達が増えた」などと生活の変化を話してくれた。

2018年2月28日
ヤンキン子ども病院
(Yankin Children Hospital YKCH)

贈呈式行事の後、出席した5名の子ども達代表に車椅子が引き渡された。児童施設から来ている女児や、家族は助かっているが、まだ車椅子に慣れないでいつも嫌がっている男児もいるとのこと。



9歳の男児は脊髄と近くの骨が損傷しており手足が不自由。



6歳の男児は体に震えやツッパリの症状がある。

今回出会った子ども達と家族の皆さん



当会の詳しい活動内容はHPで14<http://kaigaikurumaisu.org>

N P O 法 人

海 外 に 子 ど も 用 車 椅 子 を 送 る 会



活動
レポート

2018年8月 第19号



エチオピア
2018年5月
90台

首都アシスアベバ市で90台を障害をもつ子供たちに届けました。さらに7月には90台をバハルダール市に届ける予定で、2011年に初めてエチオピアへお届けして以来、累計では520台を数えることになります。5月22日アシスアベバ市労政局オフィスでGizaws局長も参加のうえ、15名の子ども達が代表で引渡式に参加してくれました。



Gizawsアシスアベバ市政府労政局長、チェシャ財団関係者、他の福祉団体関係者が参加し、当会への謝辞を語ってくれました。

著名な社会福祉活動家Sr.Zebiderさん、MarryJoy Development主宰している。日本の篤志家から預かった日本アニメキャラクターがついた文房具をお届けした。



2011年来当会のカウンターパートを務めているCFAI.(Cheshire Foundation Action for Inclusion)は英国チェシャ財団から大きな支援を受けている団体。健常の学生、生徒などを利用する図書館・自習室には当会からの車椅子が常備されていた。学校施設への“先進的”トイレ寄贈も事業の一環。後方水タンクから手洗い場への配水が完備していることが画期的のこと。

兄弟の車椅子受取りに同行してきた兄弟たち。同国の出生率は低下してきたとは云え4人を超えていたとのことだった。青い車椅子はチェシャ財団バハルダール支部で製作したという手回し車椅子。自転車ギアを使った改造車。



インドネシア

2018年6月
160台

中部ジャワ州ソロ市の団体CBR-DTC Soloと協力し、子ども達に160台の贈呈を行ないました。同団体はWHOやUnicefなどが1980年代に大きく機運を盛り上げたコミュニティー・ベースト・リハビリテーション活動のモデル団体として、障害者も多く働いている団体です。EU欧州連合、WHO傘下の著名な国際福祉団体cbm(クリスチャン・ブラインド・ミッション)などからの支援を受け、インドネシア政府、ソロ市機関などと相互補完を果たしながら活動を継続しています。



今回は当会会員で障害をもつ子供と共に参加した会員の岡田宏美さんが各所で車椅子のフィッティングに汗を流してくれた。子どもが楽に、安全に利用する姿勢保持などインドネシアのお母さんたちは真剣に聞き入っていた。



団体事務所でMr.Christian, Mrs.Dartiさんなど幹部スタッフと事前打合せ



スカラカルタ(ソロ)市社会福祉局長Ms.Rohanaさんがセレモニーを主宰、5人の子どもが式に参加してくれた。



9歳になる前に交通事故で脊髄損傷を負った岡田真基さんも現地の子ども、保護者との時を経験した。日本から車椅子で訪問してくれた真基さんは保護者も大喜び、歓迎してくれるとともに、子共たちが見せてくれた格別の笑顔には驚かされた。ソロ市、ならび約40 km離れたスラゲン県を訪ね県政府福祉局の表敬訪問ほか家庭訪問を行なった。

N P O 法 人

海外に子ども用車椅子を送る会



活動
レポート

2018年11月 第20号



ネパール・ポカラの子ども達へ 90台をお届けしました

2018年7月 90台

7月初めに90台を載せ出港したコンテナはインド経由で8月末にネパールポカラに到着しました。現地団体CBRS Pokharaは永年にわたる社会福祉活動の実績をもっていますが、現地で進む連邦制への体制変化や法制度の運用見直しのなか本年も無償支援物資の輸入では様々な困難があったようです。同団体を通しては2017年95台に続き計185台、同国の子ども達には累計で400台超をお届けしたことになります。

9月からポカラ市、近郊の郡部に配送が進み、10月中には大部分が子ども達に届けられました。現地で受け取った子ども達やスタッフの笑顔をお届けします。



車椅子を積載したコンテナはインド東部コルカタ港からヒマラヤ連峰を望むポカラへ陸路運ばれます。コンテナはクレーンで地面に降ろされ車椅子を取り出します。



街なかの広場で荷卸しされた車椅子は団体が保有する10年モノのジープで団体事務所へ運ばれ保管されます。



CBRSPokhara代表者Krishnaさんです。同団体はポカラ事務所7名の常駐スタッフで障害者児、女性、貧困者支援を行なっています。



車椅子、ウォーカーなどを受け取った子ども達や現地スタッフの様子。赤い頑丈なウォーカーを試す障害をもつスタッフは、小さな時にこのようなウォーカーを使うチャンスがあれば、本当に助かったのにとメッセージを伝えてくれました。



エチオピア

エチオピアの 障害のある子どもたちへ

2018年7月 90台

エチオピアへの子ども用車椅子90台の贈呈式は、アジス・アベバから北北西に350km離れたバハル・ダール市にあるチェシャ財団の拠点施設で開催されました。5月の90台の贈呈式に続いて今年2回目です。当日の会場には、チェシャ財団の本部とバハル・ダール地区責任者及びスタッフが揃い、エチオピア政府の社会労働福祉局のアレムネ・モラ氏と日本大使館からは板倉二等書記官が出席してくれました。車椅子を受け取る子どもとその家族など60名程が参加して盛大に行われました。



(左)子どもの体格に合わせてチェシャのスタッフが車椅子を選びます。

(中)初めて車椅子に乗ってうれしそうな子どもです。

(右)会場が手狭で入り切れない家族が外で待ちます。



車椅子を届けた家庭を訪問すると、どの家族も大変喜んでいました。子どもたちの笑顔が印象的です。最後に記念撮影しました。

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート

2019年3月 第21号



ラオス・サイセタ州の子ども達へ 2019年2月 90台 車椅子90台を届けました。

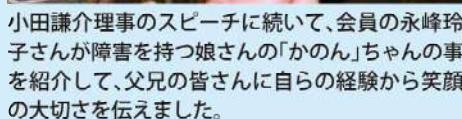
贈呈式は、サイセタ州のホンソウパブ小学校に隣接する障害児協会事務所の庭で行されました。約100名近くが参加しました。地域の人たちが車椅子を喜んでくれている言葉や表情に直接触れる温かい印象的な式となりました。



ソンペット・アッカポン障害児協会会长挨拶
今回の車椅子は昨年9月のダム決壊被害のあったラオス南部の子ども達への支援にしたいです。



来賓のセイセタ郡スリナ・ブッタラー副郡長



小田謙介理事のスピーチに続いて、会員の永峰玲子さんが障害を持つ娘さんの「かのん」ちゃんの事を紹介して、父兄の皆さんに自らの経験から笑顔の大切さを伝えました。

相模女子大学学生のプレゼンテーション「日本での車椅子活動紹介」と整備の基本ムシゴム交換のデモンストレーション。学生グループからの桜の花に書いたメッセージの贈呈



式に出席した子ども達と家族



インド

インドのバラナシ市近郊の 子供たちへ2度目の供与です

バラナシ市は紀元前6世紀からのヒンズー教や仏教の宗教遺跡をもつ聖地としてたいへん有名ですが、今ではインド最大の2億人の人口をもつといわれるウッタル・プラデーシュ州に属している都市です。この街を中心に社会活動を続けているJan Vicas Samiti(JVS)を通じ2016年に続き2度目となる90台を届けました。2019年2月23日に州議会議員、国や州の障害福祉関係機関からの来賓をふくみ100名近い参加者で贈与式が行われました。式の中では障害者向け現状福祉政策の紹介なども行われ、障害者手当申請のオンライン化、障害者の結婚への政府補助制度も話題となったということです。90台の車椅子はバラナシ市、とその近郊の10を超える社会活動グループの協力を得ながら子供たちの生活改善に活躍します。



(このプロジェクトは(公財)日本国際協力財団の助成を受け実施しました)





The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN